

差し止め判決を 勝ち取ろう!

厚木爆同

【発行】
 厚木基地爆音防止期成同盟
 発行責任者 石郷岡 忠男
 事務所 大和市桜森3-5-3
 フォント1F
 TEL 046-240-7450
 FAX 046-261-5615
 bakudou@kanagawa.email.ne.jp

オスプレイの飛行再開中止！ 爆音訴訟勝利！ 爆音と基地被害の解消を！

―厚木爆同第64回定期代議員総会開催―

厚木爆同第64回定期代議員総会は5月11日、大和市渋谷学習センター多目的ホールで開催。今総会では多くの代議員の参加のもと、活発な活動が報告されました。防衛費の増額、軍備の増強等、日本が戦争のできる国へと変化させている現在の政府に対するの危険が共有され、そのもとでの厚木爆同の2024年度の基本方針を確認しました。

はじめに
 総会では書記長が司会。議長に大和北1支部の斎藤竜太さんを選出。議事運営委員長から総会が成立していることが報告され、執行委員も含めて70名の参加がありました。

石郷岡委員長が開会の挨拶をした後に神奈川平和運動センター副代表の小原慎一さん、原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川県をめざす県央共闘会議共同代表の布施恵さん、第五次厚木基地爆音訴訟原告団団長の大波修二さん

安全な生活の実現を

厚木爆同委員長 石郷岡 忠男



今回の総会では来賓挨拶も含め、それぞれの報告の中にも世界中で戦争に巻き込まれていく恐怖を、参加した全員が感じた気がします。

厚木基地を取り巻く環境も最近特に変わってきているように感じます。

艦載機が移転して6年が経ちますが騒音が無くなったわけではありません。今でも年間1300から1500回の騒音が記録されています。さらにオスプレイ等の訓練で厚木基地が中継拠点として正式に表明され、補給や給油のためにたびたび飛来するようになっていきます。それに加えて、厚木基地に隣接する日本飛行機がオスプレ

イの定期機体整備を受注したことで、オスプレイの飛来がますます増えています。オスプレイとえば、昨年11月29日に墜落して8名の犠牲者が出ましたが、詳しい説明がない状態で飛行を再開しています。オスプレイ以外でも、新しい訓練がいろいろ始まっています。このまま黙っていても基地の縮小どころか、拡張につながってしまう心配があります。64年目を迎える厚木爆同ですが、このような状態が続く限り私たちの闘いはやめるわけにはいきません。安全安心な生活を実現するために、共に頑張りましょう。よろしくご協力をお願いします。

NHK受信料問題 最近の状況

NHK受信料問題について、最近の状況を報告します。

●宛名無し封筒送りつけ
 最近、NHKから厚木爆同会員宅に宛名のない住所のみの封筒が送られてきています。NHKから、契約を求める書類が入った封筒です。ここ半年の間に2〜3回送られてきたという会員もいました。NHKが、訪問営業の方針を転換したことが理由です。

●これまで、委託先法人による強引な訪問営業活動については批判が多数NHKにも上がっています。総務省の分科会でも問題が指摘されていました。厚木爆同でも

報告・活動日程、第2号議案「2023年度一般会計・特別会計決算報告」「会計監査報告」、第3号議案「2024年度活動方針案」、第4号議案「2024年度一般会計予算案」はいずれも満場の拍手で承認されました。

●終わりに
 総会では最後に「総会決議案」を満場の拍手で採択しました。「総会決議」では、艦載機が厚木基地から岩国基地に移転しても米空母艦載機の飛来があったり、自衛隊P3CやP1哨戒機の旋回飛行が続き騒音の被害にさらされています。さらに、ヘリコプターが頻繁に厚木基地の上空を低空で飛ぶので、騒音が激しく身体に感じ不快な気持ちになります。部品

会員の皆さんの声を直接NHKに届け、要請や交渉を行っていきましょう。

その結果、NHKはこれまでの「巡回訪問営業」から「訪問によらない営業」へ業務モデルを転換。「訪問によらない」営業活動の一端として、氏名の記載なく住所記載だけの郵便物を受信契約のない世帯へ発送し始めたのです。手紙の中身は確認してください。

●割増金制度
 放送法を改定し、未契約割増金制度の導入も行われています。割増金とは、「不正な手段により受信料の支払いを免れた場合」、「正当な理由なく期限までに受信契約の申し込みをしなかった場合」に支払を免れた額にプラス割増金

落下や墜落の不安に常にさらされています。有機フッ素化合物(PFAS)の汚染なども問題になっています。騒音被害が続いているだけでなく新たな被害が出ていくことを指摘。

オスプレイの飛行再開阻止、第五次爆音訴訟の勝利に向けて会員の拡大をはかり、組織強化のためにも支部活動を充実し「爆音のない静かな空を取り戻す」さまざまな行動を、すべての会員の団結で取り組むことを決断しました。

(受信料の二倍)を請求することができるといいます。

NHKは、「割増金が導入されても、納得してお手続きやお支払いをいただくという方針に変わりはなく、割増金は事由に該当する場合でも一律に請求するものではありません。」と断言しています。

以上、最近目立つNHK受信料に関する情報をお知らせしました。不安なときは支部長及び担当者にご相談ください。



爆音解消に向けてガンバロー

訃報

調査部長、町田支部長として活躍されました山本健治さん(82歳)が4月27日、お亡くなりになりました。この間の活動に敬意を表しますとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

オスプレイが飛行停止後初飛来 飛行停止と配備撤回を!

昨年11月に乗員8人の墜落死亡事故を起こし、12月以降全世界で飛行停止になっていたオスプレイですが、在日米軍と防衛省は3月8日、事故原因の詳細を明らかにしないまま飛行解除を発表しました。

厚木爆同など4団体は3月19日に飛行再開に抗議し、再度の飛行停止を求める要請書を厚木基地で米海軍司令官に手渡すと共に、防衛省南関東防衛局を訪ねて局長に手渡したところです。

厚木爆同は5月10日にも、衆議院会館で全国基地爆音訴訟原告団連絡会議の一員として「オスプレイの飛行再開に抗議し、配備撤回を求める全国集会」

に参加し、外務省と防衛省に要請しました。

防衛省側は「事故は特定の部品が破損したもので原因が特定されており、同種の事故は防げると考えている」と答えましたが、事故原因の詳細が明らかにならないままの飛行再開は許せません。

そのような中5月16日、米軍のオスプレイ1機が理由が不明のまま厚木基地に飛来しました。さらに5月20日、22日、23日と、日本飛行機厚木工場で定期整備中と思われる米軍オスプレイの試験飛行が目撃され、24日には普天間基地に帰投しました。5月16日に飛

PFAS汚染事故で新事実発覚 事故防止を求める

米軍厚木基地は2022年9月24日、有機フッ素化合物(PFAS)を含む泡消火剤が基地の外に大量に漏れ出す事故を起こしました。米軍厚木基地の格納庫が雨漏りで、消火設備の電気系統がショートしたため、と言われています。

沖縄タイムスによりますと、米兵らは消火剤を散らそうとホースで大量の水を撒きましたが、これが逆効果になりました。米海軍が作成した事故調査報告書は「周辺環境に到達する汚染水の量を大幅に増やした」と指摘。米軍は汚染水が基地内を通る蓼川に迫っていることに気付き、排水路の門を閉じようとしたましたが操作レバーが壊れて

汚染水は川に流れ込み、流出から8時間後の午前11時になってようやく止まりました。事故で発生した約25万リットルの汚染水のうち、どれだけ基地外に流出したかは不明です。米軍で作業に関わった米兵は、翌週におよそ15人が頭痛や吐き気といった体調不良を起こしました。報告書によると、厚木基地では20



高濃度のPFASが検出された引地川(境橋下流)

来したオスプレイは、まだ居座っています。

日本飛行機厚木工場では米軍オスプレイの定期機体整備を契約しており、オスプレイの飛行が避けられません。また、訓練や連絡などで、厚木基地へのオスプレイの飛来もあります。

墜落の危険が高いオスプレイが、住宅密集地の上空を飛行することは許せません。日本飛行機厚木工場の機体整備計画の詳細の公表と、オスプレイの飛行停止と配備撤回を求めています。



飛行再開したオスプレイ

21年10月にもPFAS漏れがありました。汚染水を貯蔵しているとみられるタンクはそのまま現地にあり、処分方法は決まっています。厚木基地では2009年から2016年まで、泡消火剤が絡む大規模事故が少なくとも5件発生しています。今後も監視していきます。

「土地規制法」による権利侵害を跳ね返そう!

基地による被害は、今や騒音や墜落にとどまりません。「重要土地等調査法(土地規制法)」に基づいて、基地など「重要施設」の周辺(約1キロ範囲)を対象に国が「注視区域」を定め、「機能阻害行為」を防止するためとして、住民への説明ぬきに監視や権利を脅かす事態が静かに進行しています。昨年12月に厚木基地、キャンプ座間、

空母が交代、オスプレイが艦載機に?

米海軍横須賀基地に配備されている原子力空母「ロナルド・レーガン」が5月16日、約8年8ヶ月に渡る任務を終え帰国の途に就きました。これに代わり同型艦の「ジョージ・ワシントン」が、今年の秋にも同基地に配備される予定です。

「ジョージ・ワシントン」は2008年、日本国内に初めて配備された原子力空母として横須賀基地を母港としました。2015年に離日し、その後大規模な改修工事や核燃料棒の交換を行いました。原子力空母同士の交代は今回で2度目となります。

レーガンの離日に対して地元で反対している市民団体は「2度と来ないで」「レーガンの離日は同時に原子力空母の永久母港化への道を開く危険な動きだ」などの声明を出しました。

横須賀基地と厚木基地とは密接な関係にあります。以前空母が横須賀基地を出港する前に艦載機が盛んに離着陸訓練(FCLP)を行い、基地周辺地域に甚大な爆音被害を出していました。その後私達の闘いの成果でもあり訓練

は硫黄島で行うことになりましたが、荒天などの影響で硫黄島での訓練が出来ない時は、厚木基地は代替の訓練基地になっています。

米海軍は原子力空母艦載機部隊の連絡機C2グレイハウンドに代えて、オスプレイを2025年までに交代を完了する計画です。

欠陥機と言われているオスプレイは、点検のための飛行停止からわずか3ヶ月程で不具合の原因も公表しないで飛行の再開を実施しました。オスプレイが空母の連絡機となりますと厚木基地への飛来も多くなり、騒音と墜落の危険が高まる可能性があります。

オスプレイの交代配備には反対、の声を上げて行きましょう。



空母ロナルド・レーガン(木元茂夫氏撮影)

その結果、国は今年4月、住民不在のまま注視区域指定を正式に告示しました。

何が「機能阻害行為」かも不明で、「特別注視区域」に指定されたキャンプ座間周辺では、土地売買にあたっての届出も求められます。政府のほしいうまを許さず、各地の土地規制法撤廃に向けた運動に合流し、跳ね返しましょう。

法律や区域の詳細は、内閣府ホームページをご参照願います。「内閣府重要土地等調査法」で検索するか、次のQRコードを読み取るとご覧になれます。

